



園だより 3月号

新宿区立西戸山幼稚園 令和8年2月27日発行

ディップしてトッピング

園長 佐藤 淳穂

Aさんが砂の入ったカップに少しの水を足して小枝でかき混ぜていました。カップの中で練られた砂はチョコレートのようにになっています。Aさんはかき混ぜるのに使っていた小枝で練った砂をすくい取り、天ぶらの衣のように小枝にからめて付けました。

砂場の縁（ふち）にはこんもりと砂が盛られています。一つは細かい粒子の白い砂の山、もう一つはしっとりとした黒い砂の山、その隣にはもう少し粒の大きな砂利の山です。三つの山の隣には何本かの小枝が「ご自由にどうぞ」と言わんばかりに置いてありました。Aさんは、先ほどの衣の付いた小枝をゆっくりと回転させながら、サラサラの白い砂の山にチョンチョンと付けました。衣部分のチョコレートのような砂は水分を含んでいるので白い砂粒がよく付きます。粉砂糖をかけたお菓子のようになりました。荒い粒の山は砕いたナッツのように見えてきて、次はどんなトッピングをするのかなと私もわくわくしてきました。



BさんもCさんも小枝を手にとると、衣を付けてはいろいろなトッピングを楽しんでいました。次にAさんは、小枝の代わりに木の皮の上に衣を乗せて試していました。唐揚げのようになって、それもおいしそうでした。

砂場には遊具の「ふるい」があります。子どもたちは「ふるい」を使って粒子の大きさを分けていました。大きな粒の砂利は、砂場の砂ではなく、運動場として整備されている園庭部分のものでしょう。子どもたちは園庭のどんなところにどんな性質の砂や土があるのか気付いているのです。また、水や道具を使うことで砂の形状や硬さや色などが変化することをおもしろがって試しています。まさに「遊びは学び」です。

まもなく、すみれ組が巣立っていきます。ここで出会い、たっぷり遊び、かけがえのない時間をともに過ごせた幸せをかみしめたいと思います。